

# 活ママの 教えてくださる？②

—算数編—

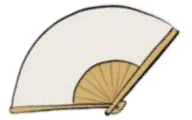


## 粉のサイズ？

活ママ「3年生でkmとかkgとか、うちの子、ピンと来てないみたいなんです。」  
 塾長「ですよねえ。すぐには無理だし、わからなくても大丈夫ですよ。六年のまとめです。まず、どうせやっても、それまで覚えているわけじゃないですよ。それに、アメリカでは、マイルだのポンドだのガロンだのと言って、メートル法を採択してないですからねえ。」  
 ママ「わからなくてもいいなんて、ひどいじゃないですか。」  
 塾長「ごめんなさい。では、今回は遊び心で、漢字で勉強してみましよう。なんてつたって、松江算数塾は国語を基盤とした算数を謳っていますから。」  
 一八五〇年（明治十八年）日本は新しい統一単位であるメートル条約に加入し、国民に広く馴染むよう漢字表記を考えました。「m」を「米」、「g」を「瓦」、「L」を「立」としたのです。  
 塾長「米、瓦、立をそれぞれ定め、kmもkgも

KLも決めました。「km」は「秆」です。」  
 あゆみ「あつ！わかった！」  
 塾長「どうしました。あつ！つて。」  
 あゆみ「たぶんkgもKLもわかりました。kgは瓦に千で、KLは立に千です。kが千倍を表すからだと思います。」  
 塾長「すごいですねえ。教科書で教えないところまでわかつちやいましたねえ。」  
 あゆみ「先生、mgも漢字があるんですか。」  
 塾長「ありますよ。mgは瓦に毛です。毛は「もう」と読みます。」  
 あゆみ「わかりました。だったら、mmは耗、mLは蚝ですか。」  
 塾長「そうです。そうです。」  
 あゆみ「その間もありますか？」  
 塾長「ありますよ。秆、稻、料、米、粉、糧、耗と並びます。1デシメートルは粉と書きまます。10cmで粉って、サイズ感が合いませんね。」  
 （教えてくれたのは、川上塾長）

# 2023年 稽古じまいは三人そろい踏み



2023,12,22 東奥谷教室

文／宮森健次  
撮影／佐野明美



あーと



ふらめん子



八三つ

二年前、だれもいなくなった実家（現東奥谷教室）をかたづけました。処理場に通うこと二十九度、総重量三トン超。どうかしていたと思えない勢いで捨てに捨てました。ガランとした部屋に立つたら、ふと、ここで寄席ができるじゃないか、と思いました。塾の話が入るはずと後です。だから、ちらつと想像しただけです。ところが、稽古じまいのこの日、ありつたの椅子と座布団がお客さんで埋まり、三人が次々と高座に立ち、笑い声や拍手が響きました。ん？これは実現してるんじゃないか？塾生のみなさん、教室の下には、どうやら魔法のランプが埋まっています。願い事、想像してみてください。かなうかもしれません。もっとも「ちかみちよりもまわりみち」まわってまわってわすれたころにかなうようです。



# 活ママの 教えてくださる？②

—算数編—

## 粉のサイズ？



活ママ「3年生でkmとかkgとか、うちの子、ピンと来てないみたいなんです。」  
塾長「ですよねえ。すぐには無理だし、わからなくても大丈夫ですよ。六年のまとめですし、どうせやっても、それまで覚えているわけですよ。それに、アメリカでは、マイルだのポンドだのガロンだのと言って、メートル法を採択してないですからねえ。」  
ママ「わからなくてもいいなんて、ひどいじゃないですか。」  
塾長「ごめんなさい。では、今回は遊び心で、漢字で勉強してみましょう。なんてたって、松江算数活塾は国語を基盤とした算数を謳っていますから。」  
一八五〇年（明治十八年）日本は新しい統一単位であるメートル条約に加入し、国民に広く馴染むよう漢字表記を考えました。  
「m」を「米」、「g」を「瓦」、「L」を「立」としたのです。  
塾長「米、瓦、立をそれぞれ定め、kmもkgも

klも決めました。「km」は「秆」です。  
あゆみ「あつ！わかった！」  
塾長「どうしました。あつ！つて。」  
あゆみ「たぶんkgもklもわかりました。kgは瓦に千で、klは立に千です。kが千倍を表すからだと思います。」  
塾長「すごいですねえ。教科書で教えないところまでわかっちゃいましたねえ。」  
あゆみ「先生、mgも漢字があるんですか。」  
塾長「ありますよ。mgは瓦に毛です。毛は「もう」と読みます。」  
あゆみ「わかりました。だったら、mmは耗、mlは蚝ですか。」  
塾長「そうです。そうです。」  
あゆみ「その間もありますか？」  
塾長「ありますよ。秆、稻、粒、米、粉、糶、耗と並びます。1センチメートルは粉と書きません。10cmで粉って、サイズ感が合いませんね。」  
(教えてくれたのは、川上塾長)

# 2023年 稽古じまいは三人そろい踏み

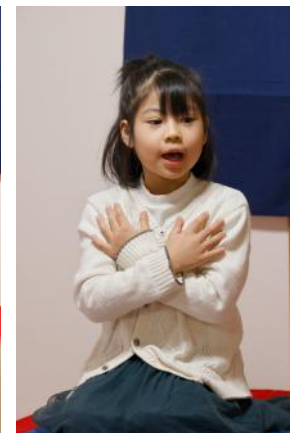


2023,12,22 東奥谷教室

文／宮森健次  
撮影／佐野明美



あーと



ふらめん子



八三つ

二年前、だれもいなくなった実家（現東奥谷教室）をかたづけました。処理場に通うこと二十九度、総重量三トン超。どうかしていたとしか思えない勢いで捨てに捨てました。ガランとした部屋に立つたら、ふと、ここで寄席がでるじゃないか、と思いました。塾の話が入るのはずと後です。だから、ちらつと想像しただけです。ところが、稽古じまいのこの日、ありつたけの椅子と座布団がお客さんで埋まり、三人が次々と高座に立ち、笑い声や拍手が響きました。ん？これは実現してるんじゃないか？塾生のみなさん、教室の下には、どうやら魔法のランプが埋まっています。願い事、想像してみてください。かなうかもしれません。もつとも「ちかみちよりもまわりみち」まわってまわってわすれたころにかなうようですが。

